

疑問・質問 知識・情報



玄関前の椅子の再設置を

Q 要望

撤去された椅子は迎えの車を待つときに便利であった。撤去された理由はタバコを吸うからとのことですが、足の悪いものにとって助かります。再設置してほしい。

回答

玄関前の椅子は、そこで腰をかけて喫煙される方がいらっしゃいまして、通行される方の迷惑になっておりました。また安全上の問題もあり皆様から撤去のご指摘を受けておりました。

このため、平成16年4月1日から全館禁煙が実施されたことに伴い、これまで置いてありました玄関前の椅子を撤去いたしました。

お車をお待ちいただく場合は、院内ホールの椅子でお待ちいただき、迎えにこられた方が警備のものにその旨をお伝えいただいて玄関前に駐車し、院内ホールに迎えに行ってくださいますようお願いいたします。

肥満学入門

おへその脇のお腹の皮をつまんでみてフ〜！たれ息ですか。でも太りすぎを実感して落ち込んだりしてはいられません。「ズボンのベルトが1つ伸びるたびに寿命が1年縮む」といわれていますように、お腹の脂肪と一緒に生活習慣病も背負い込んでしまい、結果的に寿命を縮めることにもなりかねません。

太っていることで心臓に大きな負担がかり血圧も高くなります。脂肪が肝臓にたまりやすくなり進行すると肝硬変や肝ガンになる場合もあります。また、太っている人ほど高脂血症、痛風、糖尿病を引き起こしやすく、ここから動脈硬化がすすむと心臓病や脳出血で命を落とすことにもつながります。

さて、気になる肥満の判定法・・・いくつかありますが、そのひとつつまんだ皮下脂肪で判定する方法があります。測定部位は、通常上腕の裏側の中ほどと背中側にある肩甲骨のすぐ下の2ヶ所で、それぞれ皮下脂肪厚の合計値により肥満を判定します。男性40mm以上、女性50mm以上であれば肥満です。（現在厚生労働省で実施されている国民栄養調査ではこの測定は行われておりません。）また、身長と体重から判定する方法は、現在の体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)で求め、25以上であれば肥満、18.5以下なら痩せていることになります。

次に体脂肪から見ると、脂肪は1gにつき約9kcalのエネルギーを蓄えます。従って1kgの体脂肪を減らそうとするには9000kcalのエネルギーを消費しなければなりません。これは150g入る茶碗で約38杯分のご飯に相当します。ということは、1ヶ月間、毎日ご飯を茶碗軽く1杯ずつ減らし続けてやると体重1kg減る計算になります。

どうです？一旦太るとなかなか痩せないこともこれでうなずけますね。



受診される皆様の権利

- 1 人間として尊重され医療を受ける権利があります。
- 2 良質な医療を平等に受ける権利があります。
- 3 診療の内容について十分な説明を受ける権利があります。
- 4 治療方針について自らの意見を表明し決定する権利があります。
- 5 自分が受けている診療について知る権利があります。
- 6 診療上の個人情報やプライバシーが守られる権利があります。
- 7 診療について他の医師の意見を求める権利があります。

〒560-8555 豊中市柴原町4丁目14番1号 TEL (06)6843-0101(代表) FAX (06)6858-3531 (URL)http://www.chp.toyonaka.osaka.jp/

編集・発行：市立豊中病院広報委員会(病院管理課) 発行月：平成17年(2005年)1月

No.5 病院だより 市立豊中病院ニュース TOYONAKA MUNICIPAL HOSPITAL

基本理念

豊中市の地域中核病院として 『心温かな信頼される医療』を提供します。

「第2回 市立豊中病院がん医療公開講座」を開催しました

去る11月27日、「ゆやホール」において、約200人のみなさまにご参加いただき、第2回がん医療公開講座を開催しました。当日は、当院の藤田淳也院長が胃がん予防・診断・治療について講演を行いました。

上手な医者のかかり方
医療機関にも役割分担

- 検診で健康チェックを貰がん検診(50歳以上)検診、胃がん検診
- かかりつけ医(ホームドクター)をもちましょう

必要があれば次の医療機関へ紹介受診

がん医療の実情について
胃がん予防・診断・治療の最前線から

市立豊中病院 外科医長 藤田 淳也

「胃がんはもっとも多いがんです」

わが国のがん患者数は依然増加し続けています。驚くべきことに国民の2人に1人は癌に罹り、3人に1人はがんで死亡する時代となりました。がんはかつて特別な病気では無くなっていました。がんの内わけで見ると、死亡率では1993年以後は肺がんが胃がんを上回っていますが、罹患率では胃がんは依然1位のままです。現在でも胃がんは日本人に最も多いがんといえます。

「胃がんの診断」

胃がんそのものにはほとんど症状はありません。がんが進行して大きな腫瘍を形成することではじめて腹痛、吐き気、吐血、下血などの症状が出現します。早期胃がんで病院を受診される方は、検診で胃がんが見つかったというケースがほとんどです。胃がんの早期発見のためには定期的に検診（造影エックス線検査）を受けることが重要です。

「胃がんの治療」

胃がんの治療は病巣を切除して取り除く治療か、抗がん剤による化学療法 whichever となります。以前は切除治療といえは開腹して胃を切除する手術治療しかありませんでしたが、最近では診断および治療技術の進歩により胃内視鏡でがん病巣を取り除く内視鏡的粘膜切除術が広く一般病院でも行われるようになりました。また、腹腔鏡でモニターしながら器械を用いて手術を行う腹腔補助胃切除術は従来の開腹手術にくらべ傷が小さく体に負担の少ない手術といえます。ただしこれらの治療法はごく限られた早期胃がんのみに適応される特殊な治療法で、多くの場合は従来どおりの開腹手術が選択されています。

化学療法に関しては、近年胃がんにも効果のある新規抗がん剤が相次いで認可され治療成績も向上しつつあります。

胃がんの症状

- 胃がんそのものの症状はありません
- 早期胃がんはほとんどが無症状
- がんが進行してはじめて症状が出現します

胸やけ、上腹部痛、げっぷ、嘔吐、腹たれ、体重減少、貧血、吐血、下血

定期的に胃がん検診を受けましょう

胃がんの治療

- 切除して治す
外科的切除(内視鏡手術) 内視鏡的切除
- 薬で治す
化学療法(抗がん剤治療)